

日蓮宗白書作成のための計画原案

(要旨)

現代宗教研究所

所長 茂田 井 教 亨

調査部主任 望 月 一 靖

今年度(昭和四十二年)初頭、片山総長より「日蓮宗白書」作成のための計画案を立案するよう諮問を受けましたので、次の箇条に従ってご報告申しあげます。

一、白書作成の趣旨

二、調査要綱

三、白書作成のための手続きと組織

四、調査の順序と計画

五、総予算及びその年度配分について

記

一、白書作成の趣旨

戦後二十余年を経過した今日、国民生活の全面にわたる

文化変容はおおうべくもない現実となり、新たに提起されつつある社会情況に対応する我が宗門の再建は焦眉の急といえよう。伝統仏教諸教団においては、農地解放と農村人口の流出によって招来された農漁村寺院における財政逼迫の問題、流入人口によって現出した都市における人口集中化現象に対応する伝導と組織の問題、家族制度の崩壊と家族構成の核化現象にともなう伝道の問題、等の課題を負って「新たな教団づくり」を目ざして動きはじめているのであるが、いみじくも片山総長の提唱による「護法運動」はこの教界全般の動向と呼応するものであった。宗門再編の基幹となる課題は、新たな人材の養成と、教師再教育の問

題、単位寺院を中心とした伝道活動の強化と財政の確立の問題、新たな社会構成と時代情況に対応した宗門としての統一的伝道の確立の問題、教学の興起と宗門意識の昂揚を支えられた組織の拡大強化の問題等に要約されるが、これらを宗門行政としてより適切効果的に達成するためには、現在教団のおかれている情況と体質をより正確に把握することから出発しなければならぬ。そのための教団調査は、前金子総長以来継続されてきた課題であったが、片山総長は護法運動推進のためにより広汎で充実した宗門白書の作成を強く要請されているのである。

今日宗門の現況を正しく認識する資料を持つことは、宗門活動の基礎的作業であることは敢て説明するまでもないことであろう。宗門白書作成を要請される片山総長の趣意は宗門の現状を打開し、将来への展望を開くことの一点にあると確信する。

二、調査要綱

宗門の現況を調査するうえで、の主要な問題点は、次の十ヶ条に要約される。

- (1) 宗門の一般的現勢と組織の実態
- (2) 単位寺院の教化活動とその条件
- (3) 単位寺院における財政の問題点

- (4) 住職、教師、寺族の生活と教化活動
 - (5) 社会事業（幼児教育を含む）の現況と問題点
 - (6) 特殊な地域社会を条件とする寺院活動
 - (7) 宗門関係教育機関の現況と問題点
 - (8) 檀信徒、修徒、教師の研修活動、青年、婦人活動の実態と問題点
 - (9) 状況の認識と宗門意識（檀信徒を含む）
 - (10) 身延山及び靈跡寺院、その他特殊寺院の活動状況
- 三、白書作成のための手続きと組織
- (1) 宗務総長を代表者として、宗議会代表、宗務当局、宗務所々長代表及び実行委員会代表を含む「日蓮宗白書作成委員会」を設置する。
 - (2) 現代宗教研究所を中心として「調査実行委員会」を組織し、事務局を設置する。
 - (3) (1)及び(2)の委員会において、調査方針を起草、調整決定し、実行委員会において調査、整理、作成を行う。
- 四、調査・作成の順序と計画
- (1) 白書作成のための期間は三ヶ年から五ヶ年を目標とする。
 - (2) なぜ三ヶ年から五ヶ年を必要とするのかというと、予算処置における年度配分の問題があり、その予算配分

の期間を条件として考慮したからである。

(3) (略)

(4) 三ヶ年とした場合、作業の順序は次のようになる。

△第一年度▽

A、委員会と事務局の設置

B、調査方法等の検討

C、予備調査

D、調査内容の再検討

△第二年度▽

A、調査方針・内容の最終決定

B、調査員の訓練

C、本調査

△第三年度▽

A、本調査

B、整理集計

C、委員会による討議

D、整理及び原稿作成のための検討

E、原稿執筆

F、印刷、配布

(5) 五ヶ年とした場合には本調査の期間等が延長される。

(以下略)